市民活動サポートセンター いなぎ

ニュースレター

No.65

2020.12.9

発　行／NPO 法人市民活動サポートセンターいなぎ
事務局／〒 206-0802　稲城市東長沼 2112－1
稲城市地域振興プラザ 1F
TEL 042-378-2112　FAX 042-378-6971
E-mail　info@i-inagi-support.org
http//www.i-inagi-support.org/

特集 コロナ禍における市民活動

2020 年は新型コロナウイルスで幕を開け、そして今なお私たちの生活に様々な影響を及ぼし続けています。今回のニュースレターは、このような「コロナ禍」にあって様々な知恵を絞りながら「ウィズコロナ」を実践しながら活動を展開している事例をご紹介します。

Zoomで国際交流ができた！！ ～稲城国際交流の会

「Zoom で国際交流しよう」事業報告

日　時：令和 2 年 10 月 4 日（日）午後 1 時～ 3 時 30 分
出　演：平川知弥さん（元青年海外協力隊員～ケニア派遣時のお話）
チョールナヤ・オクサナさん（ロシア サンクトペテルブルク在住～日本の大学への留学、帰国後の日本語授業と子供たちのお話）
会　場：稲城市地域振興プラザ 4 階会議室及びご自宅（Zoom 参加者）
参加者：55 名（会場 28 名、自宅からの Zoom 参加者 27 名）

「Zoom で国際交流しよう」体験記

【稲城国際交流の会の決断】

稲城国際交流の会は、例年秋に「梨を食べながら外国人と交流しよう」と題して、市内に住む外国人をお招きし、茶道、華道、習字、演舞などを通して外国の方に日本の文化を紹介するとともに、梨や葡萄の会食をしながら外国人と市民との交流の機会を作ってきました。

しかし、今年はコロナウィルスの影響で、集会を行う際には三密を避けなければならず、今までのように飲食もできなくなるという事態となりました。

このような状況の中で稲城国際交流の会が出した結論は、事業の中止や延期とかではなく、「Zoom を活用した交流事業を実施すること」でした。

最近では、Zoom などのオンラインによる会合を行っている団体が増えてきましたが、今回、稲城国際交流の会が企画したような Zoom を使ってリアルタイムで海外にいる方と会話を行いながらイベントを進めるという試みは、事例としても聞いたことがありませんでした。しかも、イベント当日がほぼぶっつけ本番とあって、主催者も事務局である私たちもリハーサルから開始前まではハラハラドキドキの時間でした。

平川さんの Zoom 画面。左上が平川さん

主催者挨拶のあと、梨農家榎戸園の原嶋さんからご挨拶と梨にまつわるお話をいただき、いよいよ本日のゲストである北九州市在住の平川知弥さんによるケニアでの青年海外協力隊についての活動について、そしてサンクトペテルブルク在住のオクサナさんには日本での大学生活および帰国後の生活について、それぞれ Zoom を通して語っていただきました。

〔平川さんのお話要旨〕

- 平川さんは青年海外協力隊に参加し、ケニアのナイロビに派遣され、小学校の教員として活動を行った。
- 小学校はとたん屋根で土壁、基本的に電気は使わず、太陽光で授業を行う。教科書は 2、3 人で分け合いながら使っていた。
- 体育の授業で使うサッカーボールはビニール袋とビニー

ル紐で作ったもの。（ケニア人はあと先考えず、その時使えるものは何でも使う）

・比較的裕福な学校だけが修学旅行に行ける。平川さんも生徒を引率したが修学旅行中のお昼ご飯は食パンと炭酸飲料のみ。

・ケニアの特産品は紅茶、コーヒー以外には薔薇が有名、ジェンガ（積み木崩しゲーム）もケニアの発祥。

・学校の校庭でバナナ、マンゴーを栽培している。ケニアのパイナップルは完熟していて芯がないので食べやすい。生のマカデミアナッツが食べられる。洗濯やトイレは川の水や雨水を使用。

・日本製自動車の評価はとても高い。中国人はモンバサとナイロビをつなぐ道路整備に関わっているが、中国人が作った道路はすぐ穴があく。中国人は何かを作ってもケニア人に技術を引き継がないので評判は必ずしも良くない。

・ケニア内部の国立公園、動植物園を巡るツアーがある。自然公園はとても美しい。ケニアに行って最も良かったことは美しい自然と触れ合えたことである。

◇

平川さんのお話が終わり、サンクトペテルブルク在住のチョールナヤ・オクサナさんとの交流が始まった。

〔オクサナさんの経歴〕

国立文化芸術大学図書情報学部に在籍

2011-2012　（ロシア）インツーリスト通訳ガイドコース

2012-2014　岩手大学教育学部研究生

2014-2016　岩手大学大学院　教育学研究科教育専攻

〔オクサナさんの お話要旨〕

・オクサナさんは日本の大学に留学して、ロシアに帰国し、サンクトペテルブルクに在住している。旧名称はレニングラード。ドストエフスキーの出身地。

・ピョートル大帝による建都以来、ロシア最大の文化都市として発展してきた

・日本からサンクトペテルブルクまでの所要時間は約 10 時間。

・サンクトペテルブルクの図書館では宮澤賢治の絵本をはじめ、日本の漫画やアニメがとても人気で多くの蔵書がある。

・オクサナさん自身、日本の絵本やアニメにとても興味を持っている。

・日本にいる時、映画にも出演。テレビも情報番組やバラエティ番組などにも出演した。

・これからもロシアに日本文化を伝える橋渡し役として少しでも役に立ちたいと考えている。

【交流事業を終えての感想】

今回の Zoom を使った国際交流事業は稲城市としてはもちろん初めての試みでしたが、コロナ禍でのイベントをどのような形式で実施していくかという多くの市民団体が

オクサナさん（写真左）の Zoom 画面

抱える課題に対して、会場に人を集めなくても Zoom を使ったオンラインで十分な交流を実現し、イベントを成功させたことは、今後の市民活動における一つのひな形として大変大きな成果であったと思います。

従来、国際交流の会では、稲城市や近隣市に在住されている外国籍の方をお招きして、市内施設でのイベントに参加していただくことを主眼に、事業を実施してきました。

Zoom を使った交流を通して、外国にいる方とリアルタイムで話題を共有し、その方が地球上のどこにいても、パソコンさえあればイベントに参加できることが、今回の事業で実証されました。また、特筆すべきことは、日本にいる方が会場に足を運ばなくても、自宅のパソコンから自由に参加できることから、会場にお越しいただいた皆さん、自宅から Zoom でご参加いただいた皆さん、そして海外から参加されるゲストの方が Zoom という一つのツールを通してつながりを持てるイベントとなったことです。

このことによって、コロナ禍の有無にかかわらず、オンラインでの交流は稲城国際交流の会にとって、今後の活動を展開する上でも重要なアイテムであることが、メンバーの総意として確認されたのではないかと思います。

最後に、このイベントの成功の裏にはいくつかの大きな要素があったことも見逃せません。今回、司会進行を担当された齋藤さんは、アドリブも含めて、そつのない進行により空いた時間を作りませんでした。特に、このような不特定多数の方が参加されるオンラインのイベントを行う上では、司会による進行の仕方一つで、イベントの成功を大きく左右するということを改めて感じました。

一方では、Zoom の操作に熟練した方が機敏にパソコンを操作していたこと、そして、何より会員の方全員が裏方として一致協力した結果が今回のイベントを成功に導いた原動力になったということは言うまでもありません。

コロナ禍における今後のイベントのあり方に、そして他の市民活動団体のイベントのあり方についても、たくさんの収穫のあった国際交流事業でした。

（文責　小川 由紀夫）

事例 Zoom 使い方講習で他団体を支援
パソコン楽らくクラブ

パソコンの初級者講座を通じて、稲城の人々の IT を活用する能力の向上と普及を図り、生活の利便性と豊かさの向上、地域社会の発展への寄与を目的とする「パソコン楽らくクラブ」。中央公民館を活動拠点に、パソコン操作の疑問に答える「パソコンなんでも相談」を年間 58 回開くほか、ワードやエクセルなどソフトの使い方、ムービーや年賀状作成といったパソコン活用法の入門講座等々、精力的に活動しています。

それが、新型コロナにより公民館が閉館となり、活動を継続するための方策を模索したところ、オンライン会議ツール「Zoom」が最も使いやすいとの結論に至り、まずはクラブのメンバーで Zoom を体験、操作方法を習得しました。そして、集まることが困難な他団体の活動を支援するため、リモートで Zoom 活用講習会を実施するようになりました。

「Zoom でオンラインミーティングに参加するのは簡単ですが、ホスト役を務めるには、ホストならではの操作や権限があり、機能を使いこなすのに練習が必要です」（メンバーの藤田和夫さん）。これまでに 20 人以上のホスト役を輩出し、他団体からの指導要請にも応えており、「リモートを活用すれば団体の活動も色々と可能性が広がります」と藤田さんは期待しています。

事例 オンラインでワークショップを開催
いなぎコミュニティビジネスクラブ

個人・企業・団体など地域で活動する様々な主体や事業、情報をつなげるプラットフォームとして、地域ビジネスについての学びや交流を通して、地域ビジネスや地域活動の協働・発展をサポートする「いなぎコミュニティビジネスクラブ」（以下、ICBC）。

今年度も web サイトや SNS による PR・発信、多摩地域のネットワークを活かした情報提供、会員事業のコラボレーション等を行う予定でしたが、コロナ禍に対応した新しい取り組みとして、ネットを通して学び合い、つながりを作る場「ICBC オンラインワークショップ」を 5 月から開始しました。

会員になっている地域ビジネスの事業主が講師となり、自粛生活の運動不足を解消する朝のストレッチ体操、おうち時間を快適に過ごすインテリアランクアップ講座、新鮮な野菜で免疫力を上げる野菜ソムリエの講座などのワークショップをはじめ、絵本の読み聞かせやハープの演奏などもオンラインで行い、これまで 40 回以上開催しています。

「今は人が集まることは難しいけれど、リモートでも深いつながりを作れることが分かりました。今後もユニークな活動をしていたり、思いを形にしている人をつなげることで、地域に貢献する場にしていきたいです」と、代表の浜田有里恵さんは話しています。

「金曜サロンスペシャル」をご自宅で視聴できます！

サポートセンターいなぎの YouTube チャンネルを開設しました

市民活動サポートセンターいなぎでは、YouTube チャンネルを開設し、金曜サロンスペシャルの配信を始めました。

今後行われる金曜サロンスペシャルも随時配信していきますので、ぜひご覧ください。Google アカウントをお持ちの方は、チャンネル登録をお願いします。

〔配信済みの金曜サロンスペシャル〕

「稲城かるたについて」2020 年 9 月 2 日開催
話し手：鈴木 誠さん

「伝統文化の継承と言うけれど」2020 年 10 月 2 日開催
話し手：田中 眞人さん

※ YouTube の「検索」画面で「市民活動サポートセンターいなぎ」または「金曜サロンスペシャル」と検索すると、9 月以降の金曜サロンスペシャルの動画をご覧いただけます。チャンネル登録していただくと次回からの検索が便利です。

稲城市姉妹友好都市交流協会が発足しました

去る９月27日に稲城市姉妹友好都市交流協会（以下、交流協会）が設立されました。この協会は、姉妹都市及び友好都市との相互交流を通して、心豊かな市民生活の向上と地域の活性化に寄与することを目的としています。

これまで、稲城市では平成３年に北海道大空町と姉妹都市提携を締結し、平成27年には福島県相馬市、長野県野沢温泉村と友好都市提携を締結しました。また、今後、海外においても、アメリカ合衆国カリフォルニア州フォスターシティー市との姉妹都市提携を予定しています。

今後、交流協会は、稲城市と姉妹都市、友好都市を結んだそれぞれの市、町、村にお住まいの子どもから大人まで全世代の皆さん、さらには、稲城市内に居住している約1500名の外国人の方々との交流を通して、それぞれの文化を体験いただき、より多くの市民の皆さんに参加していただける会を目指していきます。

皆さんのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

○会　長　　安東道正
○副会長　　中井敏生
○理　事　　岡田昭人・小沢 重郎・寺島 彰・中村 燈・原 忠男・藤島 亮子・藤田 佑二
○監　事　　石橋良生

会員を募集しています

海外都市との交流、国内の姉妹都市である大空町、友好都市の相馬市、野沢温泉村との交流活動、観光等について興味のある方、市民の手でより良い交流をしていくために、会員になって一緒に交流事業を進めてみませんか。

また、「活動に興味はあるけれども時間がない、でも活動を応援したい」という方も賛助会員として参加してください。

〔年会費〕

正 会 員　個人１口2,000円、団体１口10,000円
賛助会員　個人１口1,000円、団体１口5,000円

○問合せ　稲城市姉妹友好都市交流協会事務局
稲城市東長沼2112－１地域振興プラザ内
TEL.042-378-2112　FAX.042-378-6971

おじゃまします

くらすクラス

JR南武線の高架化により生まれた高架下の空間を活用し、新たな地域コミュニティを生み出すための多世代交流施設の運営主体として、2016年４月に「開校」した一般社団法人いなぎくらすクラス。マルシェをはじめ音楽やスポーツのイベント、もちつもたれつ食堂や本好きが語り合うイベントなど、稲城市民を中心とした運営メンバーによって、従来の地縁団体とは一味違う地域コミュニティづくりが行われてきました。

そして今年６月、これまで運営に関わってきたメンバーの思いを引き継ぎ、多世代の様々な人が集えるコミュニティを育む場として、東日本旅客鉄道株式会社（以下、JR）、株式会社フォーシーカンパニー（以下、ForC）、稲城市民の三者によって、くらすクラスはリニューアルしました。

「従来より一層、地域の方々と楽しみながら運営を継続していけるように、JRとForCが理事となって再始動しました」とJRの佐々木梨衣さん。JRとして、これまでの４年間に地域の人たちが築いてきた「資産」を、より継続的に発展させていけるよう関わりを強めていきたいと話します。従来はくらすクラスが主体となってイベント等の企画・運営を行っていましたが、今後はくらすクラスの施設を広く地域の人や団体等に貸し出すことによって、地域の人々の「思いを実現する場」として活用してもらい、地域住民の活動を支援していく方針です。

実際に、若いママやパパが子育ての合間にふらっと寄って、子育てを通じた情報交換や友達づくりなどほっこり楽しめる場と時間を提供する「広場deおしゃべり会」（くらす広場で不定期開催）は、広場に子どもを遊ばせに来ていた人たちが企画して実現したものです。また、現在はくらす広場で、プランターの菜園づくりやキッチンカー

による飲食の提供を行っていますが、これらは「より充実した環境のくらす広場で過ごしていただくため、また、訪れた人同士がコミュニケーションを深めるきっかけ」という位置づけです。

この場で知り合った人たちが緩くつながり、心地よい人間関係が作れるのが、くらすクラスの最たる特長。「地域で活動してみたい、この場所を活用したい、という方は常に歓迎ですので、お気軽にご相談ください。ぜひ一度、新しいくらすクラスを体感してみてください」と代表理事の大津真人さんは話しています。

○問い合わせ先：
くらすクラスwebサイト（右の二次元バーコードからアクセス）